

2025年3月期 第2四半期 決算概要

2024年11月7日

テルモ株式会社
Chief Financial Officer
萩本 仁



CFOの萩本でございます。2025年3月期 上期の決算概要を説明いたします。

おことわり

テルモの開示資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、テルモの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況等があります。また、この資料に含まれている製品（開発中のものを含む）に関する情報は、宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。

ハイライト

■ 売上収益

- 上期として過去最高
- 全カンパニーで需要が継続、為替も寄与し全社で+15%の伸長

■ 利益

- 営業利益・調整後営業利益・当期利益の全てにおいて、上期として過去最高
- 適切な費用管理により売上成長を大幅に上回る伸長

■ 業績予想の上方修正

- 好調な業績と為替前提の変更を反映
- 売上・利益ともに過去最高を見込む

本決算のハイライトです。

上期は、売上収益、営業利益、調整後営業利益、当期利益の全てにおいて、上期として過去最高を達成することができました。

売上収益は、全カンパニーで需要が継続、為替も寄与して前年比較で15%の成長となりました。

利益は、継続して取り組んでおりますコストマネジメントの効果もあり、売上成長を上回る伸長となりました。

今回から、フリー・キャッシュ・フローも本資料の開示に加えていますが、こちらも上期として過去最高となっております。

また、このたび、上期の好調な業績も加味し、年間の業績予想を上方修正しました。この結果、売上・各利益で過去最高を更新する見通しとなり、GS26の財務目標の達成に向けて着実に進捗していると考えております。

次のスライドをお願いします。

P&L, FCF実績

■ 売上収益：一時的要因を含むも、グローバルで需要が堅調に推移。TIS、血液センター向けビジネスが牽引

■ 営業利益：売上増、価格政策、適切な費用管理による利益率の改善

金額（億円）	FY23 Q2累計	FY24 Q2累計	増減率	為替除く増減率	FY23 Q2	FY24 Q2	増減率
売上収益	4,439	5,087	15%	8%	2,286	2,505	10%
売上総利益 (%)	2,283 (51.4%)	2,770 (54.5%)	21%	12%	1,185 (51.8%)	1,395 (55.7%)	18%
一般管理費 (%)	1,315 (29.6%)	1,480 (29.1%)	13%	6%	664 (29.0%)	732 (29.2%)	10%
研究開発費 (%)	318 (7.2%)	368 (7.2%)	16%	10%	164 (7.2%)	194 (7.7%)	18%
その他収益費用	15	-46	-	-	12	-38	-
営業利益 (%)	665 (15.0%)	877 (17.2%)	32%	15%	368 (16.1%)	431 (17.2%)	17%
調整後営業利益 (%)	756 (17.0%)	1,040 (20.4%)	38%	22%	411 (18.0%)	529 (21.1%)	29%
税引前利益 (%)	664 (15.0%)	851 (16.7%)	28%		366 (16.0%)	395 (15.8%)	8%
当期利益 (%)	501 (11.3%)	632 (12.4%)	26%		275 (12.0%)	293 (11.7%)	7%
フリー・キャッシュ・フロー	175	621	255%				
期中平均レート(USD/EUR)	141円/153円	153円/166円			145円/157円	149円/164円	

©TERUMO CORPORATION

4

TERUMO

PL実績です。

売上収益は、全カンパニーで二桁伸長を達成し、5,087億円と過去最高となりました。

総じて良好な事業環境での需要の継続に加え、価格政策の効果が寄与しました。詳細は、後ほど地域別・カンパニー別のページでご説明いたします。

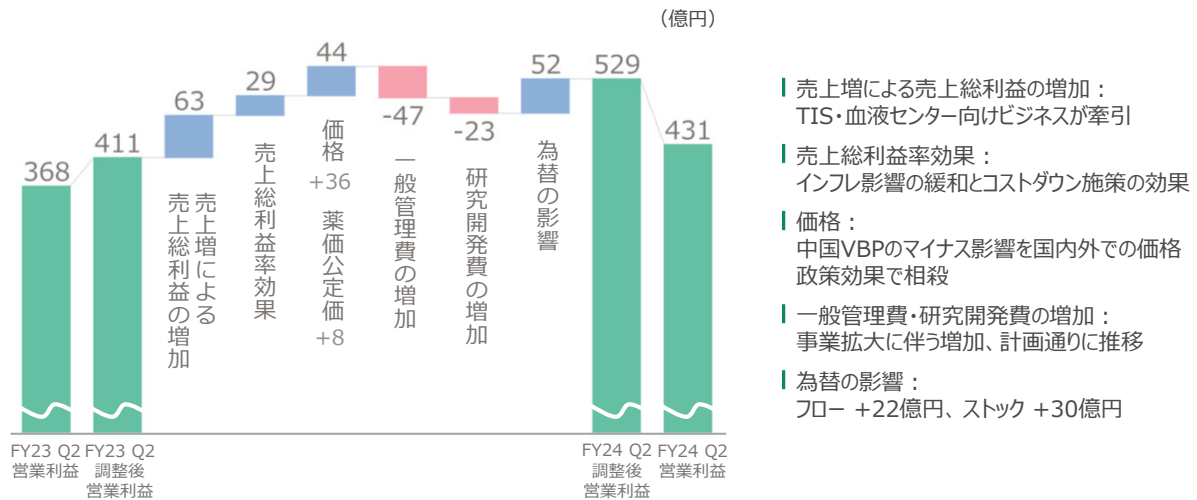
営業利益・調整後営業利益も、売上成長を大幅に上回る伸長を達成し、それぞれ過去最高の877億円、1,040億円となりました。

これは、売上拡大に対して、適切なコスト管理により利益率の改善を実現したことによるものです。

しかしながら原材料価格や輸送費の高騰などマクロ環境の変化については、予断を許さない状況と認識しておりますので、引き続き注視していきます。

次のスライドをお願いします。

営業利益増減分析 (Q2)：需要継続に加え、為替影響も寄与



©TERUMO CORPORATION

5

TERUMO

第二四半期における、前年同期比の利益増減分析です。

まず「売上増による売上総利益の増加」は、TISと血液センター向けビジネスが牽引しました。

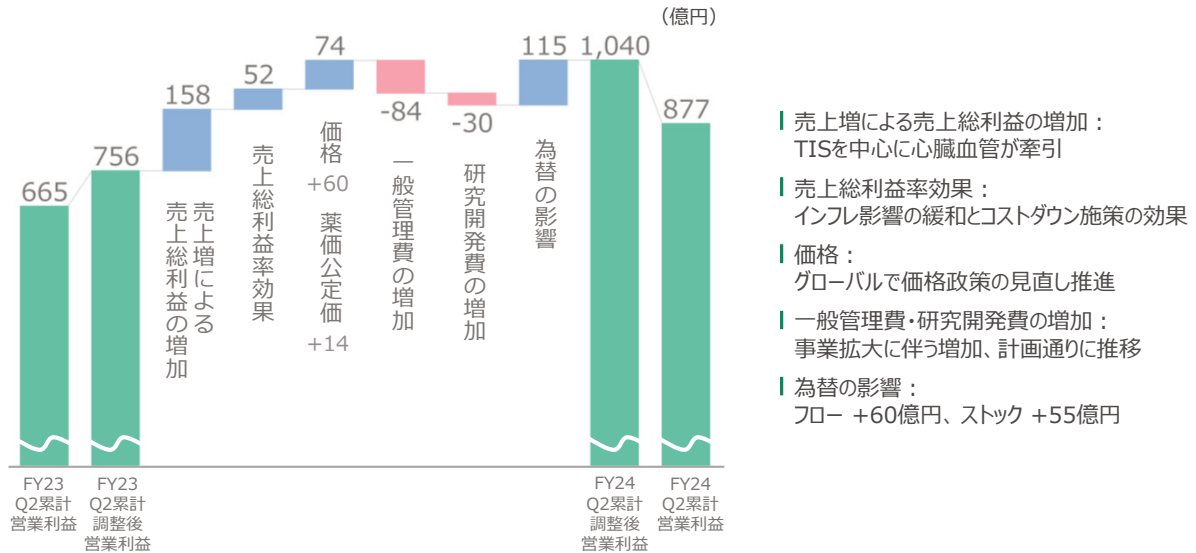
「売上総利益率効果」は、インフレ緩和と生産の効率化などのコスト削減策の効果が寄与しました。

「価格」では、昨年度に拡大した価格政策の見直し効果が表れています。国内での価格の見直しに関しましては昨年下期に実施しましたので、この上期までは増益要因として寄与しております。

「一般管理費および研究開発費の増加」は、事業拡大に伴う増加であり、概ね計画通りに推移しています。

「為替の影響」は、フローに+22億円、ストックに+30億円でした。次のスライドをお願いします。

営業利益増減分析 (Q2累計)：好調な売上と価格政策が貢献



©TERUMO CORPORATION

6

TERUMO

続きまして上期としての利益増減分析です。
 全体的には、需要継続による売上の増加が大きく貢献しています。
 傾向としては先ほどQ2の要因としてご説明した内容とほぼ同様ですが、
 売上においてはTISを中心に心臓血管カンパニーの貢献が大きくなっ
 ております。

「為替の影響」の内訳は、フローに+60億円、ストックに+55億円で
 した。

次のスライドをお願いします。

地域別売上収益：米州・欧州が牽引し、全地域で順調に進捗

(C&V: 心臓血管、TMCS: メディカルケアソリューションズ、TBCT: 血液・細胞テクノロジー
TIS: 血管内治療システム、ニューロ: ニューロバスキュラー、CV: カルディオバスキュラー、HCS: ホスピタルケアソリューション、LCS: ライフケアソリューション、PS: ファーマシューティカルソリューション)

FY24 Q2累計 地域構成比	売上収益 (億円)		FY24 Q2累計 増減率	コメント
	Q2累計	Q2		
米州 37%	FY22 1,381	719	24% (16%)	全カンパニーが為替影響を除いても二桁伸長。C&VではTISとニューロが、TBCTでは血液センター向けビジネスが牽引
	FY23 1,537	797		
	FY24 1,906	947		
日本 21%	1,012	514	6%	TMCSが大幅に伸長。HCSは価格政策が貢献、PSも計画通り進捗
	1,011	536		
	1,068	540		
欧州 21%	772	386	16% (7%)	C&Vではカルディオロジーと血管が為替影響を除いても二桁伸長。TMCSではPSが、TBCTではアフレス治療が好調
	896	452		
	1,040	499		
中国 9%	384	190	8% (1%)	C&VではTISでVBPの影響を受けて減収するも、ニューロの商流再編による大幅伸長で相殺
	411	211		
	446	215		
アジア他 12%	484	193	7% (1%)	FY23上期に好調であった血液センター向けビジネスは減収も、C&Vではカルディオロジーが、TMCSではPSが為替影響を除いても二桁伸長し牽引
	585	251		
	627	304		

() 内は為替影響除く

©TERUMO CORPORATION

7

TERUMO

地域別売上収益です。

米州・欧州を中心に、全地域で順調に進捗しています。

米州では、全カンパニーが現地通過ベースでも二桁伸長となり、全地域の中で最大の伸び率となりました。心臓血管は、前年同期に一部のアクセス製品で供給問題があったTISの回復と、ニューロバスキュラーの売上が好調でした。血液・細胞テクノロジーでは、血液センター向けビジネスが成長を牽引しました。

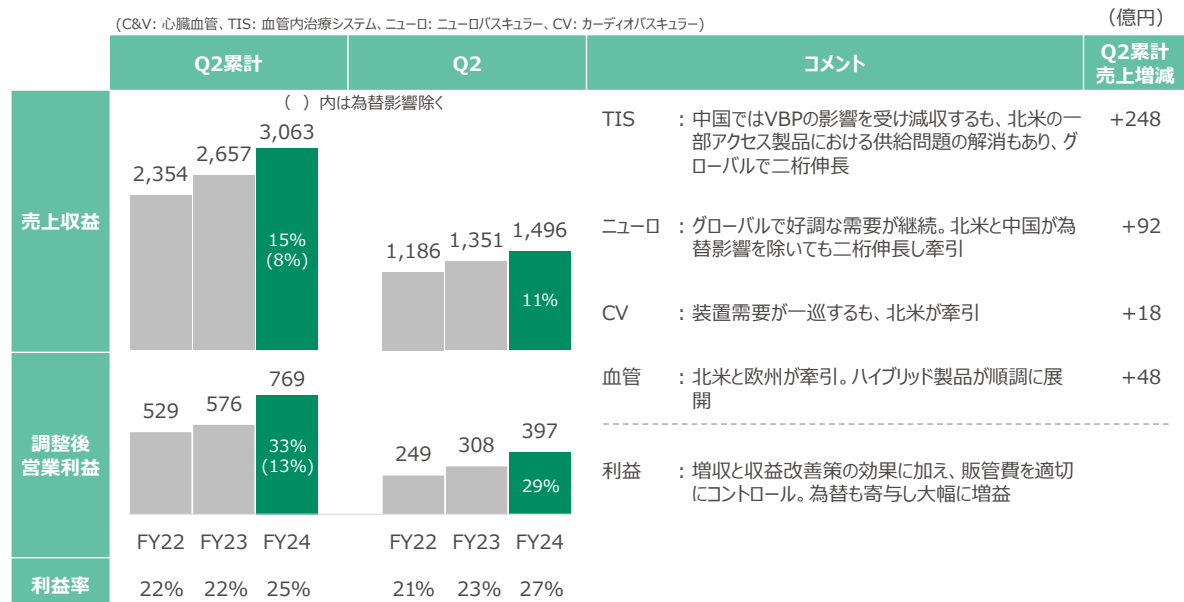
日本は、メディカルケアソリューションズが大幅に伸長しました。これは、ホスピタルケアソリューションにおける価格政策の効果と、ファーマシューティカルソリューションの堅調な進捗によるものです。

欧州は、心臓血管のカルディオロジーと血管が、現地通過ベースで二桁伸長となりました。TMCSではファーマシューティカルソリューションが、そして血液・細胞テクノロジーではアフレス治療が好調でした。

中国では、TISが集中購買の影響を受けて減収となりましたが、ニューロの大幅伸長により相殺しました。

アジアや中東などの新興国では、前年同期に好調であった血液センター向けビジネスは減収となりましたが、心臓血管はカーディオロジーが、メディカルケアソリューションズではファーマシューティカルソリューションが現地通過ベースでも二桁伸長し牽引しました。
次のスライドをお願いします。

C&V：欧米が牽引し売上・利益ともに計画を上回る



©TERUMO CORPORATION

8

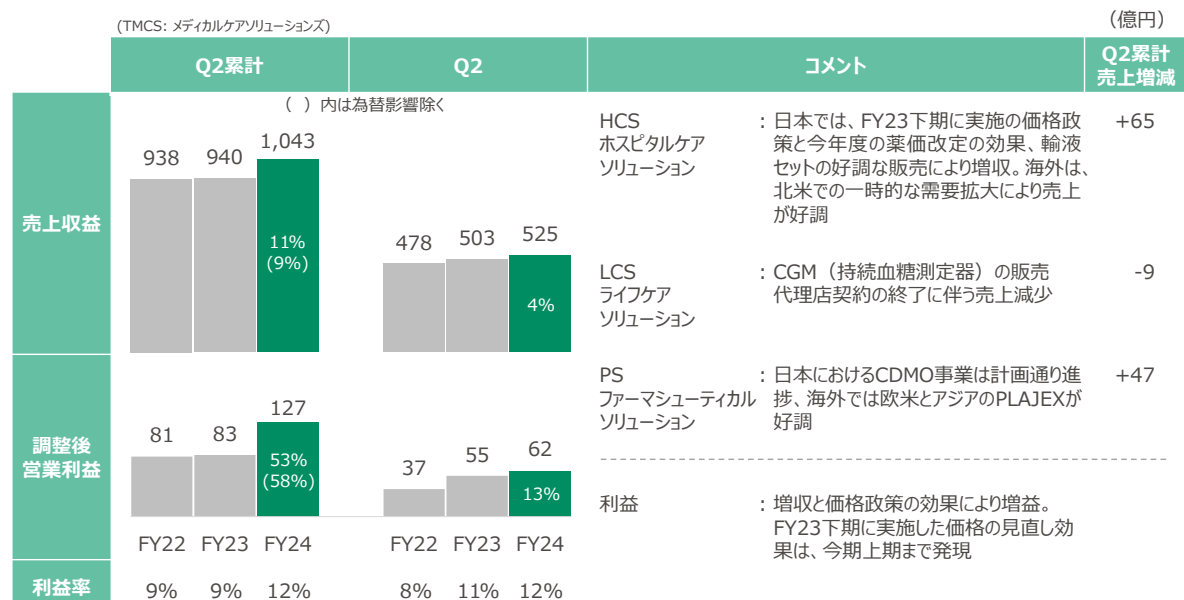
TERUMO

カンパニー別に業績をご説明します。まず、心臓血管カンパニーです。売上収益は、現地通過ベースで+8%伸長と、欧米を中心にグローバルで好調でした。

事業別伸長率では、ニューロバスキュラーと血管が牽引しました。ニューロバスキュラーは、グローバルで好調な需要が継続する中、特に北米と中国が現地通過ベースで二桁伸長となり牽引しました。利益は、増収に加え、収益改善策の効果、また販管費のコントロールが順調に進捗し、大幅に増益となりました。

次のスライドをお願いします。

TMCS：一時的要因含む売上増、価格政策の効果で増収増益



©TERUMO CORPORATION

9

TERUMO

TMCS、メディカルケアソリューションズです。

売上収益は、ホスピタルケアソリューション および ファーマシューティカルソリューションが牽引しました。

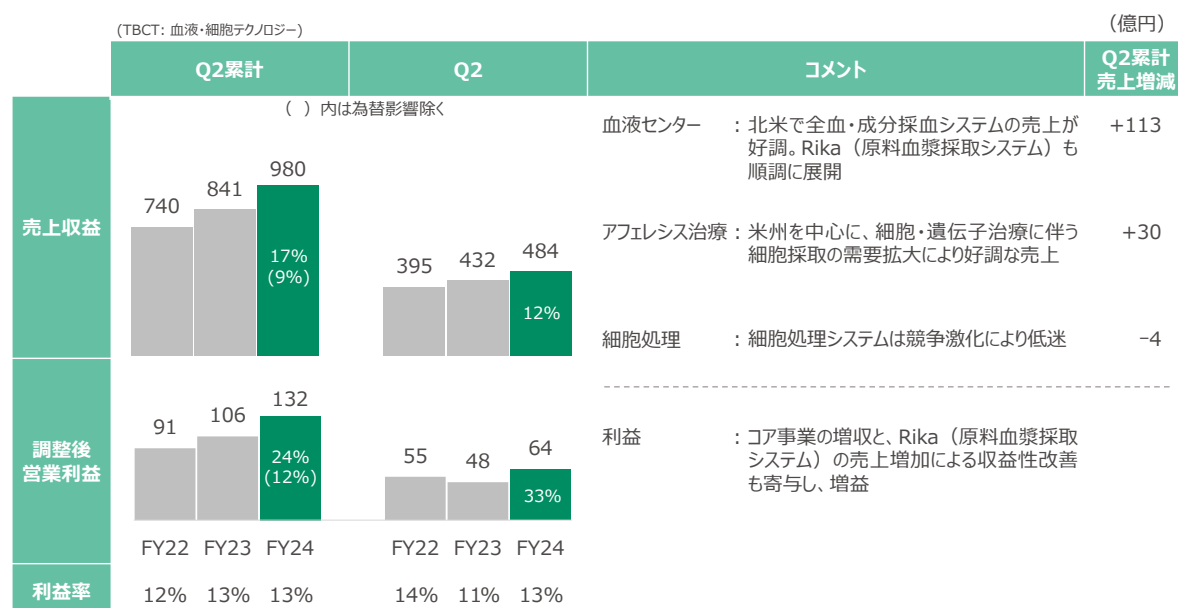
ホスピタルケアでは、価格政策の効果と、輸液セットの好調な売上が貢献しました。昨年実施した国内での価格の見直し、北米での需要拡大が主な貢献となっております。

ファーマシューティカルでは、CDMO事業が順調に進捗しています。海外では欧米とアジアでPLAJEXが好調でした。

これら増収と価格政策の効果により、増益となりました。

次のスライドをお願いします。

TBCT：血液センター向けビジネス好調による増収増益



©TERUMO CORPORATION

10

TERUMO

TBCT、血液・細胞テクノロジーです。

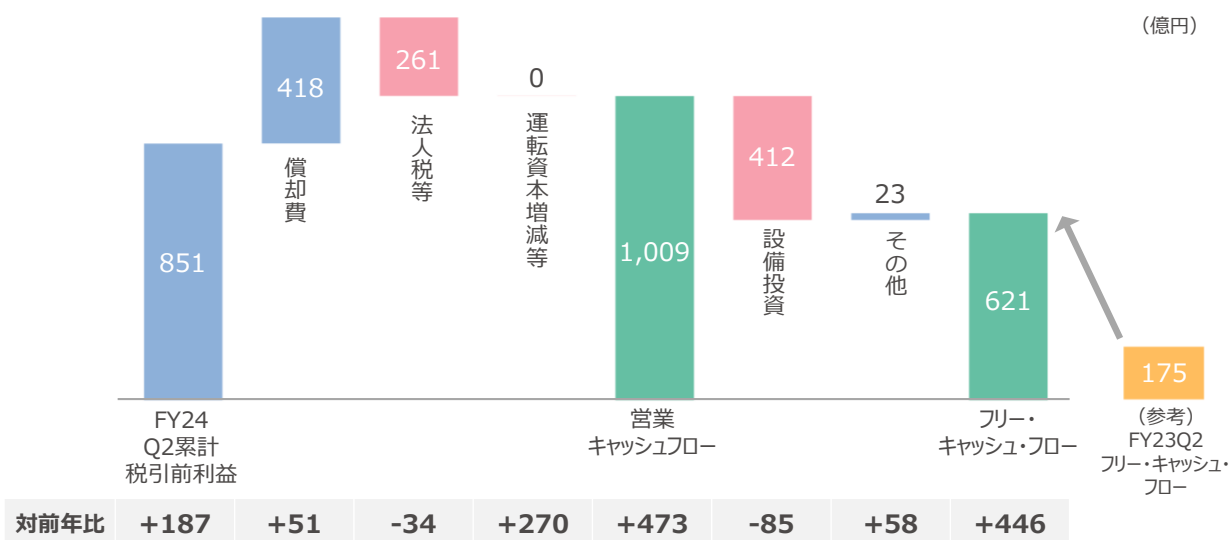
売上収益は、血液センター向けビジネスとアフレスシ治療が牽引しました。

血液センター向けビジネスは、欧米で全血採血システム および 成分採血関連製品の売上が好調でした。 Rikaも順調に展開しています。アフレスシ治療は、北米・欧州を中心として、細胞・遺伝子治療に伴う細胞採取の需要が拡大しており、好調な売上でした。

利益は、コア事業の増収と、Rikaの展開に伴う収益性改善も寄与し、増益となりました。

次のスライドをお願いします。

フリー・キャッシュ・フロー実績：621億円（前年同期比 +446）



©TERUMO CORPORATION

11

TERUMO

フリー・キャッシュ・フロー実績です。

前年同期比で446億円の増加となり、こちらも半期としての過去最高を更新しました。

利益の増加に加えて、事業規模は拡大したものの、主に運転資金において在庫のマネジメントが奏功したことで、営業キャッシュフローが対前年で大幅に増加しフリー・キャッシュ・フローの改善に寄与しました。次のスライドをお願いします。

為替に加えて、好調な業績を反映し業績予想を上方修正

() 内は為替影響除く

金額 (億円)	FY23実績 (A)	FY24 従来予想 (B)	FY24 修正予想 (C)	修正額 (C)-(B)	増減率 (C)÷(A)
売上収益	9,219	9,800	10,100	+300	+10% (+8%)
営業利益 (営業利益率)	1,401 (15.2%)	1,650 (16.8%)	1,720 (17.0%)	+70	+23% (+16%)
調整後営業利益 (調整後営業利益率)	1,568 (17.0%)	1,850 (18.9%)	2,000 (19.8%)	+150	+28% (+22%)
当期利益	1,064	1,220	1,245	+25	
ROIC	7.1%	7.6%	7.9%		
ROE	8.7%	8.9%	9.2%		
通期 業績予想前提レート(USD/EUR)		145円/155円	149円/163円		
下期 業績予想前提レート(USD/EUR)		145円/155円	145円/160円		

カンパニー別 金額 (億円)	売上収益					調整後営業利益				
	FY23 実績 (A)	FY24 従来予想 (B)	FY24 修正予想 (C)	修正額 (C)-(B)	増減率 (C)÷(A)	FY23 実績 (A)	FY24 従来予想 (B)	FY24 修正予想 (C)	修正額 (C)-(B)	増減率 (C)÷(A)
C&V	5,557	5,818	6,030	+212	+9% (+6%)	1,239	1,415	1,517	+98	+22%
TMCS	1,976	2,100	2,110	+10	+7% (+6%)	198	235	246	+11	+24%
TBCT	1,683	1,880	1,960	+80	+16% (+14%)	164	235	248	+13	+51%

©TERUMO CORPORATION

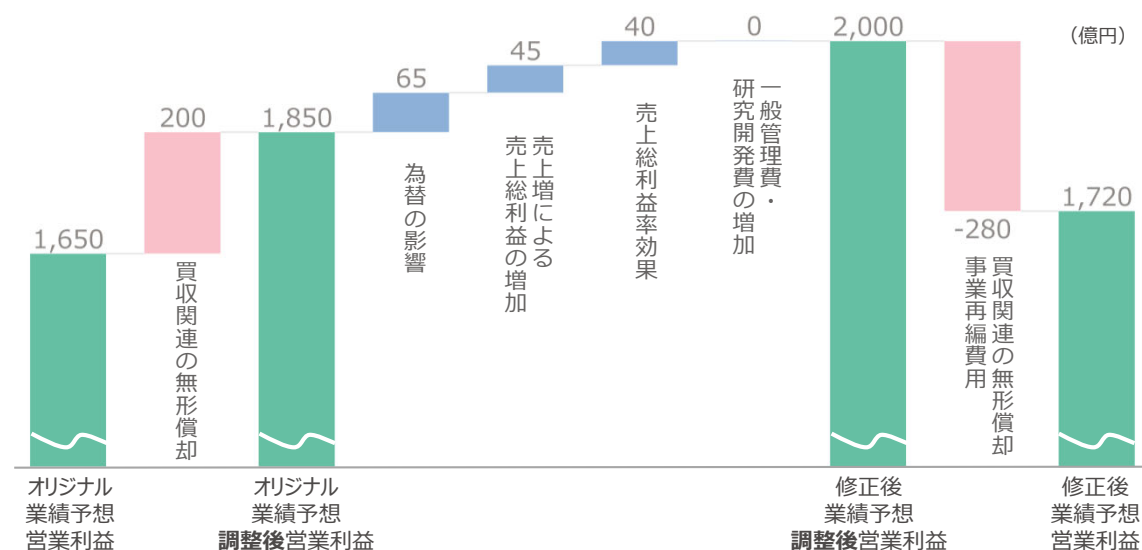
12



続きまして、業績予想についてです。
 上期の好調な業績を反映し、通期の業績予想を上方修正します。
 その結果、売上・各利益で過去最高を更新する見通しです。
 各カンパニーでも、売上・利益ともに上方修正となっています。
 次のスライドをお願いします。

調整後営業利益の上方修正のポイント

為替に加えて、海外での好調な業績や生産オペレーションの効率化も寄与し150億円の上方修正



©TERUMO CORPORATION

13

TERUMO

この度、調整後営業利益を年初想定 of 1850 億円から 2000 億円へ上方修正しております。これは年初想定に比較して有利な為替水準であったことに加え、着実な事業運営、事業拡大を加味しての修正となります。

なお調整項目の額に関しましては、80 億円増加しております。

これは、心臓血管カンパニーで効率性改善に向けた構造改革費用の引当金を計上したものとなりますが、こちらの後続改革に関してはまだ継続中の部分もあり、この場でこれ以上詳細の説明は差し控えさせていただきます。

引き続き経営環境の変化に関しては注視し、必要があれば迅速に是正策の検討などは行っていく必要はありますが、第一四半期に続き、事業のファンダメンタルは安定していると認識しており、今年度の調整後営業利益の 19.8%、GS26 の財務目標に向けての経営努力を継続していきたいと考えております。

以上で私からの説明を終わります。ご清聴ありがとうございました。

参考資料

P&L（四半期推移）

（億円）

		FY23 Q2 (7-9月)	Q3 (10-12月)	Q4 (1-3月)	FY24 Q1 (4-6月)	Q2 (7-9月)
売上収益		2,286	2,391	2,389	2,582	2,505
売上総利益		1,185 (51.8%)	1,266 (52.9%)	1,243 (52.0%)	1,376 (53.3%)	1,395 (55.7%)
一般管理費		664 (29.0%)	707 (29.6%)	737 (30.9%)	748 (29.0%)	732 (29.2%)
研究開発費		164 (7.2%)	173 (7.3%)	199 (8.3%)	174 (6.7%)	194 (7.7%)
その他収益費用		12	5	39	-8	-38
営業利益		368 (16.1%)	390 (16.3%)	346 (14.5%)	446 (17.3%)	431 (17.2%)
調整後営業利益		411 (18.0%)	441 (18.5%)	371 (15.5%)	511 (19.8%)	529 (21.1%)
四半期 平均レート	USD	145円	148円	149円	156円	149円
	EUR	157円	159円	161円	168円	164円

販管費（四半期推移）

（億円）

		FY23 Q2 (7-9月)	Q3 (10-12月)	Q4 (1-3月)	FY24 Q1 (4-6月)	Q2 (7-9月)
人件費		349	371	373	398	384
販促費		44	54	54	52	47
物流費		46	49	51	51	59
償却費		61	65	66	70	68
その他		164	168	192	178	175
一般管理費		664	707	737	748	732
(売上比率)		(29.0%)	(29.6%)	(30.9%)	(29.0%)	(29.2%)
研究開発費		164	173	199	174	194
(売上比率)		(7.2%)	(7.3%)	(8.3%)	(6.7%)	(7.7%)
合計		828	881	937	922	926
(売上比率)		(36.2%)	(36.8%)	(39.2%)	(35.7%)	(37.0%)
四半期 平均レート	USD	145円	148円	149円	156円	149円
	EUR	157円	159円	161円	168円	164円

販管費（前年同期比）

（億円）

	FY23 Q2累計	FY24 Q2累計	増減	増減率	為替除く 増減率	FY23 Q2	FY24 Q2	増減	増減率
人件費	685	782	97	14%	7%	349	384	35	10%
販促費	93	99	6	6%	1%	44	47	3	7%
物流費	94	109	16	17%	11%	46	59	13	28%
償却費	119	137	18	15%	9%	61	68	6	11%
その他	325	353	28	9%	3%	164	175	11	7%
一般管理費	1,315	1,480	165	13%	6%	664	732	68	10%
（売上比率）	(29.6%)	(29.1%)				(29.0%)	(29.2%)		
研究開発費	318	368	50	16%	10%	164	194	30	18%
（売上比率）	(7.2%)	(7.2%)				(7.2%)	(7.7%)		
合計	1,633	1,847	215	13%	7%	828	926	98	12%
（売上比率）	(36.8%)	(36.3%)				(36.2%)	(37.0%)		

調整後営業利益：調整額

(億円)

	FY23 Q2累計	FY24 Q2累計	FY23 Q2	FY24 Q2
調整後営業利益	756	1,040	411	529
調整① 買収無形資産の償却費	-97	-109	-50	-53
調整② 一時的な損益	6	-54	8	-45
営業利益	665	877	368	431

※ 調整項目に含まれる費用・収益の例

- ・買収関連費用
- ・訴訟関連損益
- ・減損損失
- ・事業再編費用
- ・損害保険収入
- ・災害による損失
- ・その他一時的な損益

調整②「一時的な損益」の内訳	FY23 Q2累計	FY24 Q2累計
事業再編費用	-7	-66
オリンパステルモバイオマテリアル株式売却益	13	-
TBCT土地売却益	-	14
その他	-	-1

設備投資、償却費、研究開発費

(億円)

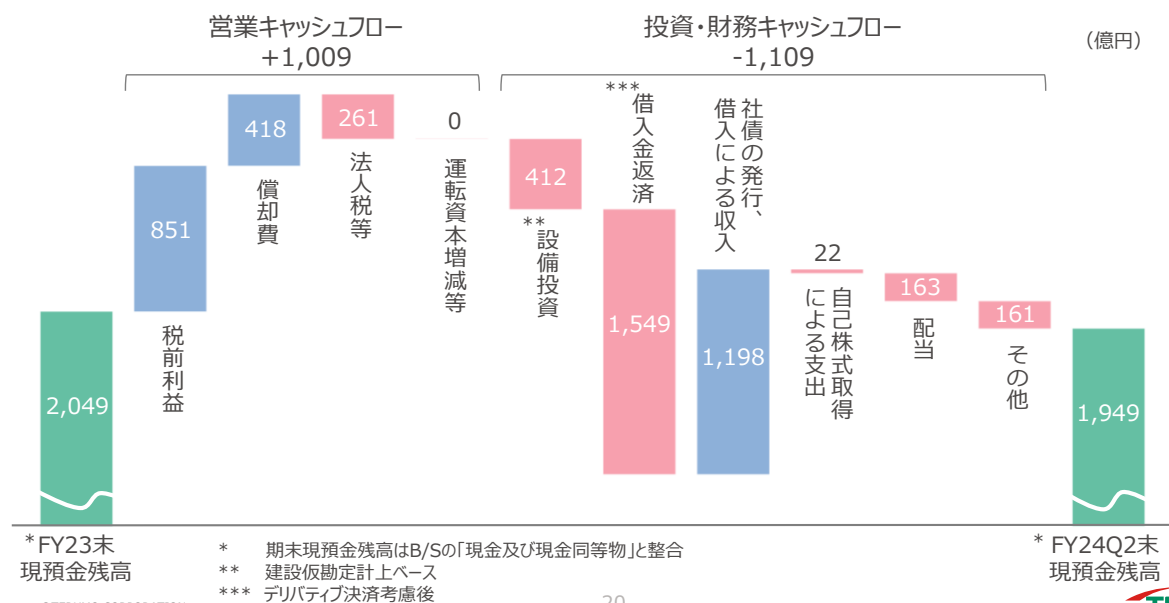
	FY21	FY22	FY23	FY24Q2累計	FY24予想
設備投資	692	758	784	412	930
償却費	532	635	702	382	770
買収無形償却費	161	188	200	105	200
それ以外	371	447	502	277	570

設備投資は、建設仮勘定計上ベース・リース含まず、償却費はリース償却含まず

■ FY24Q2累計（412億円）：CDMO（開発製造受託）等生産体制強化のため甲府工場内の新棟建設他、TISおよび血液・細胞テクノロジーの増産設備、原料血漿採取関連、R&D投資、基幹システム（SAP）等のIT投資を継続

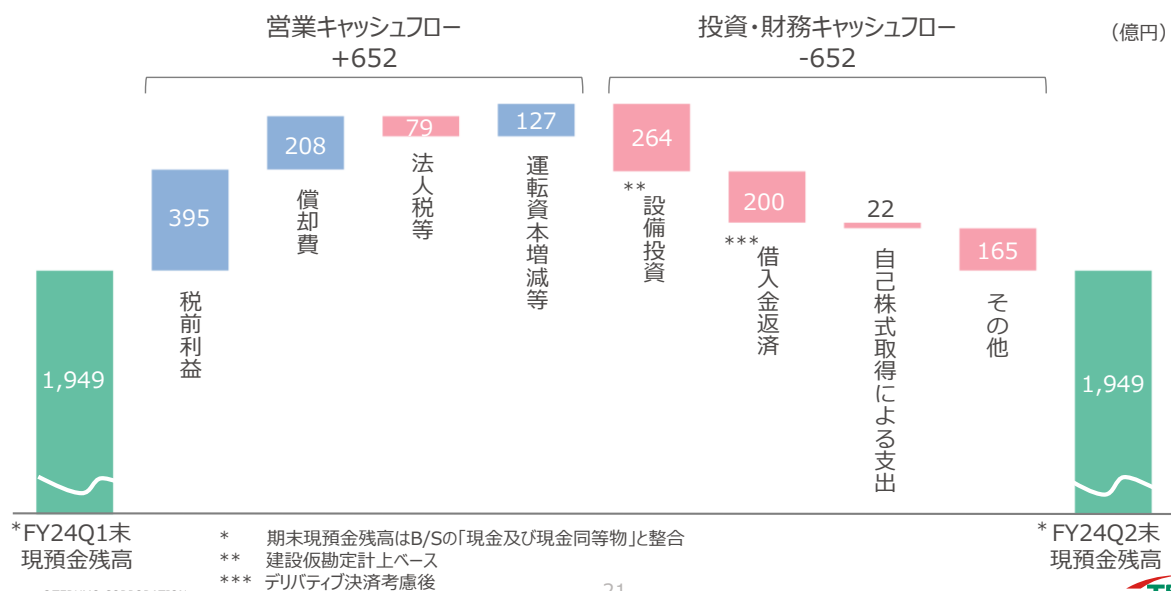
	FY21	FY22	FY23	FY24Q2累計	FY24予想
研究開発費	518	616	691	368	715

キャッシュフロー（Q2累計）



TERUMO

キャッシュフロー（Q2）



TERUMO

為替感応度

1円の円安に対しての年間影響額（フロー）

（億円）

	USD	EUR	中国元
売上収益	25	11	39
調整後営業利益	1	5	23

1円の円安に対しての影響額（ストック）

	USD	EUR	中国元
調整後営業利益	-2.5	-0.6	-2.0

